

人間学会 ニュースレター

上智人間学会
2019年3月27日発行

1. 第47回大会のご案内
2. 研究発表・紀要原稿の募集について
3. 第46回大会報告記
4. 役員会・事務局からのお知らせ

1. 第47回大会のご案内

次回大会につきまして、役員会で協議した結果、下記の要領で開催することに決定いたしましたので、ご案内申し上げます。

期日：2019年9月6日（金）・7日（土）

場所：清泉女学院大学 長野駅東口キャンパス（長野市）

テーマ：いのちを看る・かかわりを生きる

医療技術の進歩によって、人間はかつて不治とされた様々な病を克服し、健康を享受できるようになりました。しかしそれとともに私たちの生活は高度な技術によって、時として過剰に管理され、「いのち」の自然なあり方を見失いつつあるように思われます。人間らしい「いのち」を支えるために、真に必要なもの、それは技術を用いる私たち人間どうしの「かかわり」を通じた「ケア」の営みでしょう。

「看る」という語には、ただ観察し診断するだけではなく「気を配って世話をする」つまりケアの意味が含み込まれています。医療や介護のような専門的な場面のみならず、日常のいのちとくらしを見守り支え合う「かかわり」の本質を、様々な観点からご一緒に考えたいと思います。

皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2. 研究発表・紀要原稿の募集について

☆第47回大会研究発表の募集

上記の大会テーマを共通課題として、研究発表を募集いたします。(質疑をのぞき25分程度)
なお、研究発表は他に発表したことのないもので、人間学に関係した内容に限ります。

【発表応募締切】

所定の申込用紙に記入の上、

2019年5月10日(金)必着 で事務局へお送り下さい。

【発表応募に対する回答通知】

2019年6月初旬までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【発表概要の事前提出期限】

大会研究発表の発表概要の提出期限は2019年9月2日(月)

A4版で3~5枚、原則としてワープロ作成

☆『人間学紀要』第49号論文の募集

2019年度紀要(2020年1月発行予定)の原稿を、下記の規定に基づき募集します。なお、2015年度より「原稿の提出」をもって論文の「応募」を受け付けることになりましたので、ご注意ください。論文は査読の上、掲載の可否を通知いたします。掲載可の場合でも、内容により加筆修正や掲載区分の変更などをお願いする場合があります点をご了承下さい。

【論文応募締切】

所定の申込用紙(7月発行ニュースレターに同封予定)に記入の上、原稿およびデータと合わせて

2019年9月30日(月)必着 で事務局へお送り下さい。

【応募に対する回答通知】

2019年11月末までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【投稿規定の改定について】

2018年8月31日に開催された学会総会において、紀要投稿規定の改定について承認されました。大きな変更点は以下の通りです。①査読が行われることを明記する。②連続投稿に制限を設ける。③図表などの使用について、多様な学問領域の研究スタイルにも対応した規定とする。④その他、現状に合わせた表記の整備を行う。

つきましては、次ページの内容をご確認の上ご投稿いただきますよう、お願い申し上げます。

【投稿規定】

- ・応募資格を有する者は、本学会の会員のみとする。
- ・他に発表したことのないもので、人間学と関わりのある新原稿であることとする。
- ・論文は16,000字以内、研究ノートは同8000字以内（いずれも脚注を含む）相当とする。
- ・投稿された原稿は、複数名による査読の上、編集委員会にて掲載の可否を決定する。
なお審査の過程で内容の修正や掲載区分の変更を求める場合がある。その場合は編集委員会が再び採否を判断する。
- ・応募論文のほか、編集委員会からの依頼原稿や報告記などが掲載される場合がある。
- ・2号連続しての投稿は原則として認めない。ただし、上智大学神学部の所属教員については、その限りではない。
- ・原稿は所定の期日までに「上智人間学会事務局」宛に3部郵送すること。
- ・原稿は原則としてワープロ作成（A4版・40字×30行）とし、原稿提出の際には使用機種を明記し、データファイル（USBメモリ等）を同封すること。
- ・図表や写真を使用する場合は、そのまま印刷可能な状態のものを用意すること。
- ・原稿には日本語表記に加えて、英文のタイトルおよび執筆者氏名を標記すること。
- ・原稿冒頭に掲載するため、400字以内の要約を添付すること。

3. 第46回大会報告記

去る2018年8月31日と9月1日の両日に渡り、上智大学を会場として、第46回大会が開催されました。今回は「イエズス会教育と人間学」をテーマに、基調講演とシンポジウムおよび会員による研究発表が行われました。

一日目は基調講演とシンポジウムが行われました。講演はイエズス会司祭の李聖一先生にお願いいたしました。先生は永年に渡り広島学院を始めとするイエズス会の中等教育の現場で活躍され、現在は上智学院のイエズス会中等教育担当理事として、イエズス会教育推進センターの運営にあたっておられます。当日の演題は「イエズス会教育というものはあるのか?」。刺激的なタイトルに期待の高まるなか、先生は16世紀の『学事規定』から現在の「Cristo Rey」にまで通底する「行動様式」としての「Ignatianidad イグナチオらしさ」の本質について、いきいきと笑いを誘いながら、明快にお話下さいました。イエズス会教育の理念や特徴を論じることは、難解なラテン語の羅列の注釈ではなく、学びを生きた実践のプロセスとして意識し、表現し、共有していくことに他なりません。霊操やロナガンの認識論の中に見出され受け継がれてきたこの姿勢を、現代に適応したかたちで模索する試みの大切さを、改めて心に刻んだ豊かなご講演でした。

引き続き行われたシンポジウムでは、イエズス会学校の現場で活躍しておられる先生方に登壇いただき、それぞれの学校での試みや、困難事例などを分かち合いながら、広く「人間教育」の課題や可能性について考えていくヒントを探りました。シンポジストは望月伸一郎（栄光学園中・高等

学校長)、松村康平(広島学院中・高等学校教諭)、原敬子(上智大学神学部)、瀬本正之(上智大学神学部)の四名の先生方にお願ひし、フロアーからの質疑も合わせ、活発な討議が行われました。

シンポジウムに引き続き、総会が開催され、任期を満了される瀬本先生に代わり、高山貞美先生が新会長に選出されました。その後は会場を「紀尾井亭」(13号館)に移し懇親会が催されました。かつて料亭「福田屋」として政財界要人の会合に用いられた、落ち着いた雰囲気の中で、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、和やかに語らいのひとときを過ごしました。

二日目には、クルトゥルハイムにてミサが捧げられたのち、学会員による研究発表が行われました(島村絵理子、井川昭弘、佐々木隆、吉川まみの各氏:発表順)。「イエズス会教育」と「人間教育」を結ぶ様々な切り口から、意欲的な発表と活発な質疑が続き、人間学の眼差しの深みと広がりを見ることができました。(記:崎川)

4. 役員会・事務局からのお知らせ

★2018年夏の大会にて、瀬本正之先生に代わり高山貞美先生が新会長に選出され、10月より新体制の役員会が発足しました。新たな役員として稲葉景先生(白百合女子大学)に加わっていただき、中村友太郎先生、長島世津子先生のお二人は退任されることとなりました。両先生には永年に渡り、本学会に多大な貢献をいただきました。あらためて深く感謝申し上げます。

★2019年度の大会は、長野市の清泉女学院大学で開催させていただくことになりました。この4月から新たに看護学部看護学科が設置され、キャンパスも長野駅前に竣工したばかりということです。地域に根ざしたケアの文化と、キリスト教的な愛や奉仕の精神が互いに結び合うような、意義深い対話の場になるよう、企画を進めて参ります。

★ニュースレターに掲載する「書評」や「著書紹介」、またエッセイや近況報告、お知らせなどの原稿も随時募集しております。ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

★退会者(2017年9月~2018年8月まで)

吉田 幸司 守屋 治代

(2018年度入会者のお名前は『紀要』第48号に掲載しております)

★ご逝去

理辺良 保行(上智大学名誉教授) 2018年11月5日ご帰天 80歳

上智人間学会ホームページアドレス

<http://ningen-gakkai.org>

上智人間学会 役員会/事務局

会 長 高山 貞美

事務局 (担当:田代奈津子)

幹 事 武田なほみ 崎川 修

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

会 計 丹木 博一 稲葉 景

上智大学神学部(キリスト教人間学)事務室内

紀要編集 久保 文彦 吉川 まみ

TEL 03-3238-3529 FAX 03-3238-3945

会計監査 堀井 泰明

E-mail:theolo-2@sophia.ac.jp